

GPA の活用について

本学では、2013年度より「GPA(グレード・ポイント・アベレージ)」を活用し、学生の皆さんの成績状況を把握しながら教育の向上に努めています。GPA向上を明確な学習目標に設定し、効果的・効率的で積極的な学修計画の立案、学生の成績の状況に応じた適切な学習支援、学習意欲の向上、さらには教員による履修相談・履修指導に役立てることを目的として全学的に導入しました。

なお、GPAの詳細については、『学生便覧』の「成績の評価等（GPA）」をご覧ください。

1 年度毎の GPA

目安として通算 GPA が「2.0 以上」となるように、年度毎の学習計画を立て、安易な履修登録を避け、自らが積極的に学修することが望まれます。

2 学習の振り返り

GPA により、年次毎の学修状況を知ることができます。GPA を確認して、予習・復習等の授業時間外学習や各授業科目の振り返りを行い、具体的な行動計画を立てて、自己管理をし、卒業年次までの学修に取り組むようにしましょう。

また、年度毎の GPA の推移を把握し、その原因や背景を振り返り、学習行動や学習意欲を高まるように取り組みましょう。

3 通算 GPA が 0.4 以下の場合には

3 年生で通算 GPA が低い場合は、卒業するのに努力がいる状態といえます。このため、本学では、2・3 年生進級時に通算 GPA が 0.4 以下の場合、卒業年次までの学修について、より一層の努力が求められるため、厳重な注意を促します。

履修や年間の学習計画、進路についてもう一度よく考える必要があります。卒業研究やゼミの担当教員との履修相談、学生相談室のカウンセリング等を利用してみてください。なお、理工学部では3 年次進級時に留年制度があります。

4 お問い合わせ

ご不明の点は、事務課（教育支援担当）、教務委員会の担当教員などにお問い合わせください。

*GPA は、(小数点第3位以下を切り捨て)